令和8年6月30日

# 専門学校 神田外語学院　学校関係者評価報告書

学校法人 佐野学園
専門学校 神田外語学院
学院長　今井　実

学校法人佐野学園　専門学校神田外語学院　学校関係者評価委員会は、令和8年度自己点検評価報告書の結果に基づいて学校関係者評価を行いましたので、下記の通り報告いたします。

１．実施日：令和８年６月２２日(月)　１０:００～１２:００

２．場　所：学校法人佐野学園本部ビル７階　会議室

３．出席者：

・学校関係者評価委員

| | |
|---|---|
| 宮田保美 | 千代田区内神田旭町々会 会長 |
| 鈴木國仁 | 卒業生、株式会社ベルージュ代表取締役 |
| 田中清美 | 卒業生、卒業生保護者 |
| 嶋田京一 | 株式会社風カルチャークラブ代表取締役 |

・本学教職員

| | |
|---|---|
| 今井　実 | 学院長 |
| 棚沢　聡 | 事務局長 |
| 池田　政隆 | 教務部ゼネラルマネージャー |
| 仙北谷　玲衣 | 学生支援部ゼネラルマネージャー |
| 松平　健二 | 総務部ゼネラルマネージャー |
| 三村　英男 | アドミッション＆コミュニケーション部アシスタントゼネラルマネージャー |

４．実施方法、公表：

学校関係者評価の実施にあたっては、令和７年度に実施した「自己点検評価」を学校関係者委員の皆様にご確認頂き、自己点検評価の各項目に対する評価とご意見を頂きました。
評価結果は、今後の本学における教育活動や学生指導等、学校運営の改善に活かし、ホームページ等に公表いたします。

５．学校関係者評価・意見

評価項目に対する学校関係者の評価及び意見、提案（以下、評価等という）をご報告いたします。

| 評価 | A.適切 | B.ほぼ適切 | C.やや不適切 | D.不適切 |
|---|---|---|---|---|

## Ⅰ　教育理念・目的・育成人材像

| 中項目 | 小項目（指標） | 学校関係者評価 |
|---|---|---|
| 【1-1】　理念・目的・育成人材像 | 1　理念・目的・育成人材像は、定められているか | A（4名） |
| | 2　育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか | A（4名） |
| | 3　理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか | A（4名） |
| | 4　社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか | A（4名） |

理念、目的、育成人材像は明確に定められ、専門分野に関する各業界のニーズにも適合している。特色ある独自のプログラムを積極的に取り入れる事で、社会の変化するニーズに対しても柔軟に対応する姿勢もある。

## Ⅱ　学校運営

| 中項目 | 小項目（指標） | 学校関係者評価 |
|---|---|---|
| 【2-2】　運営方針 | 5　理念等に沿った運営方針を定めているか | A（4名） |
| 【2-3】　事業計画 | 6　理念等を達成するための事業計画を定めているか | A（4名） |
| 【2-4】　運営組織 | 7　設置法人の組織運営を適切に行っているか | A（4名） |
| | 8　学校運営のための組織を整備しているか | A（4名） |
| 【2-5】　人事・給与制度 | 9　人事・給与に関する制度を整備しているか | A（4名） |
| 【2-6】　意思決定システム | 10　意思決定システムを整備しているか | A（4名） |
| 【2-7】　情報システム | 11　情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか | A（4名） |

職員に周知徹底されている建学の理念を具現化するべく運営方針、事業計画が明確に定められている。留学生や多様な背景のある学生がこれまでに比し多く入学してきているが、各部署が緊密に連携し、遺漏なく対応できている。また各会議体が有期的に機能し、諸課題に対して臨機応変で柔軟に対応できている。

## Ⅲ　教育活動

| 中項目 | 小項目（指標） | 学校関係者評価 |
|---|---|---|
| 【3-8】　目標の設定 | 12　理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか | A（4名） |
| | 13　学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか | A（4名） |
| 【3-9】　教育方法・評価等 | 14　教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか | A（4名） |
| | 15　教育課程について外部の意見を反映しているか | A（4名） |
| | 16　キャリア教育を実施しているか | A（4名） |
| | 17　授業評価を実施しているか | A（4名） |
| 【3-10】　成績評価・単位認定等 | 18　成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか | A（4名） |
| | 19　作品及び技術等の発表における成果を把握しているか | A（4名） |
| 【3-11】　資格・免許の取得の指導体制 | 20　目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか | A（4名） |
| | 21　資格・免許取得の指導体制はあるか | A（4名） |
| 【3-12】　教員・教員組織 | 22　資格・要件を備えた教員を確保しているか | A（4名） |
| | 23　教員の資質向上への取組を行っているか | A（4名） |
| | 24　教員の組織体制を整備しているか | A（4名） |

各学科における教育目標は明確に定義されており、カリキュラムは学生および社会の要請に柔軟に適応できるよう、適切な内容と方法論に基づいて構築されている。また、その効果検証も適正に実施している。学修成果の評価や単位認定においては、基準を広く周知・明示し、厳格な運用を徹底している。教育の質的向上を最優先課題とし、それを担う教員の採用にあたっては、能力や資質だけでなく人間性も重視した厳正な選考を行っており、更に、教員の資質向上のためのワークショップ等を積極的に開催し、指導力のボトムアップが適切に機能している。近年増加傾向にある留学生への指導体制についても、きめ細かく問題のない対応を実現している。

## Ⅳ　学修成果

| 中項目 | 小項目（指標） | 学校関係者評価 |
|---|---|---|
| 【4-13】　就職率 | 25　就職率の向上が図られているか | A（4名） |
| 【4-14】　資格・免許の取得率 | 26　資格・免許取得率の向上が図られているか | A（4名） |
| 【4-15】　卒業生の社会的評価 | 27　卒業生の社会的評価を把握しているか | A（3名）、B(1名） |

就職希望者に対する支援体制は整備されており、活動者についてほぼ例年通りの高い内定率を獲得する結果を得ている。卒業生に関して、その幅広い分野でのなお一層の活躍を期待するとともに、ホームカミングデーの実施やSNSを効果的に用いることにより、卒業生ネットワークのより一層の強化に期待したい。

## Ⅴ　学生支援

| 中項目 | 小項目（指標） | 学校関係者評価 |
|---|---|---|
| 【5-16】　就職等進路 | 28　就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか | A（4名） |
| 【5-17】　中途退学への対応 | 29　退学率の低減が図られているか | A（1名）、B(3名) |
| 【5-18】　学生相談 | 30　学生相談に関する体制を整備しているか | A（4名） |
| | 31　留学生に対する相談体制を整備しているか | A（4名） |
| 【5-19】　学生生活 | 32　学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか | A（4名） |
| | 33　学生の健康管理を行う体制を整備しているか | A（4名） |
| | 34　学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか | A（2名）、B（2名） |
| | 35　課外活動に対する支援体制を整備しているか | A（2名）、B（2名） |
| 【5-20】　保護者との連携 | 36　保護者との連携体制を構築しているか | A（4名） |
| 【5-21】　卒業生・社会人 | 37　卒業生への支援体制を整備しているか | A（1名）、B(3名) |
| | 38　産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか | B(4名) |
| | 39　社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか | A（1名）、B(3名) |

学生支援体制は全般的に手厚く機能している。進路面では、就職・編入・留学の目的別に専任職員とカウンセラーを配した専門部署を組織し、最適なサポートを展開している。生活面においても、担任制によるきめ細かなフォローアップに加え、医務室や学生相談室による心身両面の専門的ケア体制が堅持されている。経済的な困窮への対応についても、保護者との協働のもと、各種奨学金制度の周知や積極的な活用支援を行っている点が評価される。

今後の焦点は退学率の抑制にあると思われる。学生層の変化という背景を考慮しつつも、単なる人的なケアに留まらず、「構造・システムの変革」に踏み込む必要があると思われる。加えて、グローバル化に伴う留学生の増加を見据え、彼らが安心して就学できるよう、多言語による相談窓口の開設や支援体制の構築を進めることが、今後の喫緊の課題と言える。

## Ⅵ　教育環境

| 中項目 | 小項目（指標） | 学校関係者評価 |
|---|---|---|
| 【6-22】　施設・設備等 | 40　教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか | A（4名） |
| 【6-23】　学外実習・インターンシップ等 | 41　学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか | A（4名） |
| 【6-24】　防災・安全管理 | 42　防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか | A（4名） |
| | 43　学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか | A（4名） |

教育環境の整備は総じて適正に行われており、計画的な修繕や設備の更新が着実に実施されている。在学生のみならず、教職員の学内環境向上にも注力されているほか、法定点検も遺漏なくクリアしている。防災面においては高い意識が保たれており、消防計画に基づく各種点検・検査の実施や、防災避難計画の策定がなされている。さらに、防犯や安全管理面への設備投資も継続的に行われており、安全かつ快適なキャンパスライフの実現に向けた適切な配慮が確認できた。一方で、近年の留学生の増加を踏まえ、地震をはじめとする災害発生時における避難方法のアナウンスや周知の手法については、さらなる工夫や改良が講じられることを期待する。

## Ⅶ　学生の募集と受入れ

| 中項目 | 小項目（指標） | 学校関係者評価 |
|---|---|---|
| 【7-25】　学生募集活動 | 44　高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか | A（4名） |
| | 45　学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか | A（4名） |
| 【7-26】　入学選考 | 46　入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか | A（4名） |
| | 47　入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか | A（4名） |
| 【7-27】　学納金 | 48　経費内容に対応し、学納金を算定しているか | A（4名） |
| | 49　入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか | A（4名） |

学生募集における厳しい環境に対し、広報アプローチの刷新や留学生受け入れの拡大を通じて局面を打開しようとする積極的な姿勢と、その成果が確認された。特に学校情報の発信においては、多角的なメディア・媒体を駆使し、募集活動全般にわたり適切な展開がなされている。また、学内業務や広報におけるデジタル化への対応・投資が進められている点も評価に値する。入学選考に関しては、今後とも丁寧な試験実施および厳正な合否判定が継続されることを期待したい。なお、留学生入試において選考手法の多様化や最適化に向けた諸取り組みが進められているほか、受益者負担（経費内容）を勘案した学費改定が適正に行われた点についても確認できた。入学辞退者への対応については、文部科学省の通知に準拠し、募集要項への明記および判例に基づく適正な返金等の手続きが厳格に履行されている。

## Ⅷ　財務

| 中項目 | 小項目（指標） | 学校関係者評価 |
|---|---|---|
| 【8-28】　財務基盤 | 50　学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか | A（4名） |
| | 51　学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか | A（4名） |
| 【8-29】　予算・収支計画 | 52　教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか | A（4名） |
| | 53　予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか | A（4名） |
| 【8-30】　監査 | 54　私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか | A（4名） |
| 【8-31】　財務情報の公開 | 55　私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか | A（4名） |

単年度事業活動収支の回復基調が見て取れ、学園の財務健全性は良好な状態にある。中長期経営計画に整合した財務分析が的確に行われているほか、単年度および中期予算・収支計画の策定から執行管理に至るまで、適正なプロセスが機能している。また、会計監査は適切に履行されており、修正や改善を要する指摘事項はない。学内監事と公認会計士の強固な連携のもと、理事会・評議員会への適切な上程・審議が行われ、ガバナンスの適正性が担保されている。また、これらの動向や財務諸表がホームページ上で広く開示されている点は、透明性の高い経営体制の証左として高く評価される。

## Ⅸ　法令等の遵守

| 中項目 | 小項目（指標） | 学校関係者評価 |
|---|---|---|
| 【9-32】　関係法令、設置基準等の遵守 | 56　法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか | A（4名） |
| 【9-33】　個人情報保護 | 57　学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか | A（4名） |
| 【9-34】　学校評価 | 58　自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか | A（4名） |
| | 59　自己評価結果を公表しているか | A（4名） |
| | 60　学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか | A（4名） |
| | 61　学校関係者評価結果を公表しているか | A（4名） |
| 【9-35】　教育情報の公開 | 62　教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか | A（4名） |

学院長の強いリーダーシップのもと、教職員全体に高いコンプライアンス意識が共有されている。個人情報保護法等の法令に対応した各種学内規程の周知・教育が徹底されており、組織統治が有効に機能している。また、定例の学校評価も適切に実施・公表され、自律的な改善サイクルが構築されており、透明性の高い組織運営に向けて、ウェブサイトや各種資材を通じた積極的な情報公開が推進されている。

## X　社会貢献・地域貢献

| 中項目 | 小項目（指標） | 学校関係者評価 |
|---|---|---|
| 【10-36】　社会貢献・地域貢献 | 63　学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | A（4名） |
| | 64　国際交流に取組んでいるか | A（4名） |
| 【10-37】　ボランティア活動 | 65　学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか | A（4名） |

地域の行事等への積極的な参加をはじめ、ボランティア活動に学生が主体的に携わっている様子が高く評価される。また、近年特に取り組みが強化されている地域社会との協働や、各種地域イベントへの参画についても確かな実績が伺え、地域に根差した活動が着実に発展している。今後の課題としては、これら一連の地域連携・ボランティア活動において、近年増加している留学生をいかにして主体的に拘わらせ、日本人学生との協働を促していくかが挙げられる。

総評：令和7年度の自己点検・評価に対し、学校関係者評価委員の皆様から貴重なご意見、ご助言を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。今回の評価においては、37の評価項目について概ね適正であるとの評価をいただくことができました。一方で、本学院が今後さらに教育の質向上と学校運営の充実を図る上で、真摯に受け止めるべきご指摘やご提言も頂戴いたしました。令和7年度は、2期制の導入や学科再編をはじめ、本学院にとって大きな改革を進めた年度でした。また、留学生や海外にルーツを持つ学生の増加など、学生層の多様化も一層進んでおります。こうした環境変化に対応しながら、学生一人ひとりの成長と自己実現を支える教育の充実に向け、教職員一丸となって取り組んでまいりました。今後は、本委員会でいただいたご意見やご提言を教育活動および学校運営の改善に着実に反映してまいります。社会や教育を取り巻く環境が大きく変化する中にあっても、本学院の建学の理念である「言葉は世界をつなぐ平和の礎」の実現に向け、不断の改善と挑戦を続け、学生の成長を支える質の高い教育の提供に努めてまいります。

学院長　今井　実